



カウンセラーだより

たじま絆保育園 2021.4・5月号

保護者の皆さん、こんにちは。もう気づけば5月末...おたよりが遅くなってしまいました。

さて、今年度初めてののおたよりは『こどものうそ、ホント！？』についてお送り致します。日常生活で、こどものうそにはよく出くわすのではないのでしょうか？日常を振り返りながら読み進めても興味深いかもかもしれません。それでは、こどものうその世界を探求してみましょう！



「こどものうそ、ホント！？」

おとなのうそとこどものうそは違う！？

ここで詳しくおとなのうそには触れませんが、おとなのつくうそとこどもがつくうそには、似て非なる心理状態が働いています。おとなはうそをついているという自覚は基本的にありますが、こどもはうそとホントが入り混じります。もうすこし適切に言えば、うそをついている間にホントへ進化？(笑)していきます。だから親は困るのです。こどもは想像に溢れ、幼児期になれば、女の子はお姫様に、男の子はヒーローになりきることもしばしばあります。現実とファンタジーがおとなに比べ、こどもはあいまいですから、親側の客観的現実(「うそでしょ？ホントは〇〇」)と、ファンタジーが入り混じるこども側の主観的現実(「うそじゃないよ、だって〇〇なんだから、ホントだよ！」)は、必然的にずれていくこととなります。おとなのホントもこどものホントも、どちらもある意味ホントなのですね。だからそもそも折り合いがつきにくいのです。

こどものうそは防衛・抵抗という観点から解明できます！

おとなにもあるのですが、人間のこころはうまくできていて、自分のこころが傷つかないように、人は防衛や抵抗を働かせます。防衛や抵抗には、いくつか種類があるのですが、防衛や抵抗の最たるものに、“否認”があります。こどもも傷つきたくないですから(ましてや愛してやまない親からの忠告は余計に)、うそを通して自分の身を守ろうとします。まだまだ小さい頃は自分の非や弱みに向き合えるほど強くありません。だから現実とうそを塗り重ね、自分のこころを保とうとします。これが1つ目のうその意味になりますが、もう一つうそを解き明かす防衛・抵抗に、“理想化”があります。理想化とは強がりとも言えるのですが、こどもにも「男の子だから」「女の子だから」「お姉ちゃん、お兄ちゃんだから」「～歳だから」と、自分のプライドを保とうとします。こどもも自信を失いたくはないのですね。そんな繊細なこころがこどもにもあるのです。だから、「ぼくは〇〇」「わたしは〇〇」と強がるのです。

ほら吹きは人気者！？

昔話や童話の中には、『うそ』をテーマにした物語がよくちりばめられています。『イソップ物語』や『ほら吹き男爵』は有名でしょうか。どの物語のキャラクターも、注目を集めるためにうそをつくのですが、どうやらうそには人の注目を集める作用があるようです。それだけうそは魅力的なのです。ですから、あたまのよい子の中には、人の注目や賛辞を集めるため、うそや隠し事(隠し物)をあえてする子もいます。冒頭で述べたように、高レベルの(?)自覚的かつ現実的なうそはおとなの領域のうそになるため、このうそは早くても幼児期以降、おとなになるにつれてつくうそになりますが、承認欲求が高く、そのままの自分に満足していない子の中には、この手のうそをつくこともしばしば認められます。

6月～7月のお知らせ

- 原則として、第1・第4金曜に出動します。詳しい時間帯は園までご確認ください。(新型コロナウイルス感染症の影響によって、急な変更があり得ます。あらかじめご了承くださいませ)



6～7月号のテーマは「こどもうそにどう対応すれば良いか？」についてお知らせ致します！是非ご覧下さい！